

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

新潟市「学・社・民の融合による教育を進めています！」
新潟市教育委員会 地域と学校ふれあい推進課 課長 河内 一美

4.5

2 トピックス 「関プロ第6回実行委員会開催 運営要項審議」

3 視点 「はじめての公民館勤務雑記」 新潟市石山地区公民館 山際 結城

3 ひろば 「子育てに絵本を」 佐渡市社会教育委員 橋本 美子

6 実践記録シリーズ 「南魚沼市大和地区のコミュニティホール『さわらび』」 南魚沼市大和公民館 石田洋一郎

7 サークル交流 「会員の健康維持と親睦を」(魚沼市) / 「楽しく踊ろう」(村上市)

7 素顔拝見 加藤 歩惟さん(五泉市) / 伊藤 航太さん(三条市)

8 お元気ですか 十日町市・岡村 和博さん

8 ネットワーク



「なぎさだ！ホイッ！！」～なぎさ体験塾（東村山、小平、柏崎の小学生交流事業）

表紙解説

4日間にわたる3市の交流事業では、海と太陽が子供たちを一回り大きく成長させてくれました。（柏崎市）

関プロ第6回実行委員会開催 運営要項審議

来年度に南魚沼市・湯沢町で開催される第54回関東甲信越静公民館研究大会の第6回実行委員会が、9月12日(水)に長岡市・まちなかキャンパス長岡で開催されました。



本会の理事を中心とする代表実行委員8名で、主に運営要綱と大会誌の編集等について協議されました。
会議の冒頭、委員(理事)の交代があったことが報告されました。
交代の理事
(人事異動のため)
下越地区理事 阿賀野市 旧理事 吉野晴記

新理事 見原健司

協議では次のことについて意見交換がなされ、決定しました。

1 予算概算 485万円

(1) 補助金200万円
県、全公連、開催地

(2) 参加料245万円
700名

(3) 協賛金30万円
協賛企業等

2 アトラクション

御実城太鼓+剣舞

3 担当者・責任分担一覧

作業分担と責任を明確にし、しておく必要がある。

↓総務部が11月までに作成する。

4 大会本部ホテル

「越路荘」

大会1日目の夜にレセプションを開催。約50名の参加。参加予定者は、実行委員、来賓(全公連、地元来賓) 関プロ理事

5 大会紀要の作成

作成の予算は長岡市で決定。業者の合見積もりで協議し、適正価格で。

6 記録集作成

テープ起こしについては、後援、祝辞、あいさつは必要なら行う。ただし、後援等の原稿、レジュメは事前に大会紀要に掲載されるので、校正程度になり掲載する。分科会は記録者の記録により掲載する。

7 会場のエンタランスに新潟県の紹介パネル

あつた方がよいが県と調整する必要はある。

8 担当者(運営部門)の打合せ

担当者が一堂に会することはない。部門ごとに部長の計画で実施する。

9 紀要、報告資料集の責任

長岡と県公連事務局で連絡を密にする。校正は長岡に一任。

10 共催、後援申請

県公連事務局が行う。

11 その他

(1) 大会開催費用として企業協賛金を募集する。主に中越地区として県内全域の企業。協賛の募集は平成25年1月から開始。広告掲載1ページ2万円。広

告掲載1ページ2万円。目分割4段1段5千円。目

標20社。

(2) 今後の予定

①年間計画で予定していた11月の実行委員会は詳細計画ができたので実施しない。

②9月27日(水)長野大会で湯浅会長が次期開催地挨拶を行う。

③関プロ理事会

平成25年2月15日(金)に南魚沼市で開催。

当日の午前中に第7回実行委員会を開催する。全委員参加。

④関プロ理事会

平成25年5月16日(木)・17日(金)に南魚沼市で開催。会場視察、ホテル宿泊有り。当日の午前中に第8回実行委員会。評議員会。例年は県教育委員会も参加。

* 9月号の記事に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

本文、2ページ「編集委員」

丹後勝次

正 五十嵐聖一(新任)

胎内市中央公民館長

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部150円 年間1,800円(いずれも送料含)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301 中野プラザ107 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-266-7711

視点

はじめての公民館勤務雑記

新潟市石山地区公民館 山際 結城



いじめがますます大きな社会問題となっている。この何十年の間に何度か問題化したことであるが、いまだに有効な解決策が見当たらないということだ。ということは、これは学校単位や地域単位を超えた、日本社会が抱える何かが背景にあるということでは。

新潟市の乳児期家庭教育のコンセプトは、乳児期に母からたつぷり抱きしめられた赤ちゃんは将来も大丈夫という。福岡正信氏は、人は分別知を会得し比較することを覚えた時から五里霧中へと迷い込んでしまう、と説く。いじめの根絶が叫ばれるが、それがある一線を越えてしまうこ

とが問題なのでは。

半年程前五木寛之氏の下山が売れ行き好調、また仏教が女性それと比較的若い世代で人気とテレビで流れていた。今年の1月社会教育主事講習で大学の先生が「つまるどころ社会教育も、人生とは〇〇に帰するわけだが」と述べておられた。阪神淡路、9・11、3・11という混乱の中で魂の彷徨の羅針を求める人は多い。

1945年の終戦後、民主主義の黎明と並行して公民館活動が日本全国で盛上がりを見せた。想うに公民館の新たな意義役割は、時代が欲した時我々の前に忽然と姿を現すのでは。

H O T N E W S

掲示板

下越地区社会教育研究集会 兼 下越地区公民館関係役員 等研修会

主催 下越地区社会教育委員連絡協議会
下越地区公民館連絡協議会

日時 平成24年10月3日(休)10時～16時

会場 阿賀野市ふれあい会館

参加対象者 下越地区社会教育委員
下越地区公民館関係役員 社会教育・社会体育・学校教育関係者等

内容
1 講演 講師：若林和枝(NPO法人おぢや元気プロジェクト代表)

2 分科会 5分科会

全国公民館研究集会 滋賀大会

日時 平成24年10月11日(木)、12日(金)

会場 滋賀県大津市民会館

大会テーマ
今こそ活力ある公民館活動を
～新しい公民館像と役割を求めて～

内容 講演 講師 酒井雄哉
(天台宗大阿闍梨)

パネルディスカッション
テーマ「災害と公民館」

* 県公連 田原事務局長が参加予定。12月の月報に参加レポートを掲載予定。

子育てに絵本を

ひろば

佐渡市社会教育委員 橋本 美子

最近若年層の凶悪な事件や陰湿ないじめのニュースが後を絶たず心が痛みます。私はその度に子どもを大切に育てられたのだろうか。

彼等の存在を認め心配してくれる人が、一人でもいたのだろうか、気になります。

以前(昭和六十年頃)子どもにどんな絵本を読んであげたら良いだろうと思っていた時、公民館講座の募集チラシが目に入り「お母さんの読書教室」に入りました。間もなく「子育てには絵本が必要」という講演に感銘を受け、沢山の絵本を子どもたちに読み聞かせるようになりました。以来、三十年近くボランティアを続け、今も近くの保育園を訪問しています。幼い

子どもの真剣な目が絵本に集まる瞬間、そして満足な表情を見た時は読み手冥利につきます。

今は、成人した息子たちと懐かしい絵本の話がますます。公民館講座の一枚のチラシが私の人生、いや家族全体を大きく変えてくれました。絵本を通して家族が共通の話題で楽しめる幸せに感謝します。そして、すべての子どもたちが絵本を読んでもらえる楽しみを経験してもらいたいと願っています。



による教育を進めています！」

算数・数学、社会や英語などの教科学習に教員の補助指導者として、大学や高校・中学校の元教員、薬剤師、学習塾講師の方々が専門的な力量を存分に生かして、子どもたちの学力向上を支える取組も増えています。授業だけでなく「宿題片付け隊」や「放課後補充学習」「土曜学習」などを行っている学校もあります。



～ボランティアの方々も生徒も真剣そのもの！～
中学校で行われた「高校入試などの模擬面接」

③学校における地域の学びの拠点づくり

授業日だけでなく、土曜日や日曜日、夏休みにも、学校施設を有効に活用して、子どもたちと地域の方がふれあったり、地域の方々の学びの機会を提供したりする活動が行われています。

「親子で漢字検定」、「読み聞かせグループのスキルアップ講座」、「学校職員によるパソコン入門講座」「地域と学校による合同防災訓練」、公民館との共催による「プレママ学校」「早ね早起き朝ごはん運動」など、年々多様な活動が見られるようになりました。



～よい一日のスタートは朝ごはんから！～
公民館と小学校の共催で調理実習

④パートナーシップ事業の取組を地域に発信

各学校では、本事業の取組やよさを「たより」や「ホームページ」などで、保護者や地域、関係施設や団体に情報を発信しています。

また、学校内に、「地域連携室」を設置し、ボランティア活動の打ち合わせや活動の振り返りを

行いながら、コーディネーターと地域の方々が子どもたちや学校のよい点、改善点について情報交換をしています。各校とも「絆ルーム」「学びの部屋」などと愛称を付け、地域や関係機関の方々が目的意識や親近感をもって、学校に足を運んでいただけるよう工夫しています。

3 地域と学校パートナーシップ事業の主な成果

1点目、子どもたちの学習意欲が高まったり学習内容の理解が深まったりしています。年齢や職業の異なる多様な大人との豊かなふれあいにより、子どもたちのコミュニケーション能力や社会性が培われたり、自己有用感を高めたりしています。さらには、大人から声をかけられたり褒められたりする機会が増えることで、子どもたちの心の安定につながっています。

2点目、地域の方々にとっては、ボランティア活動を通して、生涯学習の成果を発揮する場・仲間づくりの場・学び合いの場になっています。そして、子どもたちを支えその成長を共に喜び合うことで、地域の教育力の向上につながっています。

3点目、学校では、学校支援ボランティアとの“共育”のよさを実感し本事業の活用が進むとともに、地域からの支援をいただくだけでなく、子どもたちや教職員が、地域の一員として、地域に貢献する活動を推進する傾向が年々増加しています。

4点目、学校と公民館や図書館など社会教育施設との連携が年々充実してきました。公民館からの情報提供やアドバイス、共催事業、出前講座など、地域の子どもを共に育てるパートナーとして公民館との協働が進んでいます。

4 今後の展望

3.11大震災の被災地・仙台市で奮闘された教育関係者は次のように言い切っています。「学校支援システム（学校と地域の良好で定期的な連携）が設置されていた学校では、避難所の自治組織の立ち上げや避難所運営が円滑に行われました。災害は、日常の関係をあぶり出します。だからこそ、普段からの地域と学校の連携・協力が重要です。」

今、新潟市の学校では、日常的に地域との連携・協力を積み重ね、「学・社・民の融合による学校づくり」が着実に進んでいます。今後も、市民の方々から学・社・民の融合による教育の重要性を理解していただき、「未来を担う子どもたちの育成を見据えた、人づくり、地域づくり、学校づくり」に積極的に参画していただけるよう、周知・PR活動に力を注いでいきたいと考えています。



特集

新潟市「学・社・民の融合」



新潟市教育委員会
地域と学校ふれあい推進課
課長 河内 一美

はじめに

「素敵な課の名前ですね。」

今年度7月、文部科学省生涯学習政策局長にお目にかかることが叶い、かけていただいたお言葉です。

平成19年度、新潟市の政令市移行とともに教育委員会に「地域と学校ふれあい推進課」が設置され、本年度、6年目を迎えました。当課は、新潟市が掲げる「学・社・民の融合による教育推進」の主要事業である「地域と学校パートナーシップ事業」「ふれあいスクール事業（放課後子ども教室）」「学校施設開放事業」を担っています。今回は、地域や学校はもちろんのこと、公民館をはじめ各関係機関や団体、県外からも高い評価をいただいている「地域と学校パートナーシップ事業」についてご紹介します。

1 「学・社・民の融合による教育」とは

新潟市は、平成18年3月、本市の教育が目指す方向とあり方を明確にするため、「新潟市教育ビジョン」を策定しました。教育ビジョンでは、「学・社・民の融合による教育」の考え方を根幹に据え、人や自然を大切にす豊かな心を持ち、自分に自信をもって将来の夢や目標に向かって挑戦する子どもを育てるとともに、生涯にわたって学び続けることができる新潟市民の姿を目指しています。

「学」は学校、「社」は公民館や図書館などの社会教育施設、「民」は地域住民、家庭、地域の諸団体や企業です。学・社・民のそれぞれが役割を果たし、一体となって教育活動を進め、「融合する」ことで大きな力が発揮できると考えています。「学・社・民の融合による教育」は、より充実した教育活動を行うための手段としており、新潟市独自の考え方です。こうした考え方を全面的に押し出して、人づくり、地域づくり、学校づくりを推進しています。

2 地域と学校パートナーシップ事業の展開

(1) 事業の趣旨

本事業では、学校と地域が共に元気が出るよう、学校と地域をつなぐ「地域教育コーディネーター」を各学校に配置して「学・社・民の融合による教育」を推進しています。

平成19年度、パイロット校として8つの行政区から1校ずつ選ばれ、8校からスタートしました。その後は、国の委託や補助を受けながら、年々、拡充してきました。本年度は、158校の小・中・中等教育学校で本事業が行われ、実施率は92%となっています。平成26年度までに、市内全校での実施を目指しているところです。

「地域教育コーディネーター」（以下、コーディネーターと称す）は、地域に関わる情報や人的ネットワークが豊富で地域からの信頼が厚く、かつ、学校職員として適切に業務に携わることが期待されます。各学校の「パートナーシップ推進会議」から推薦を受けた地域の方に、教育委員会が委嘱する市非常勤職員であり学校職員の一員です。今年度は、247名（小・中学校の兼務者を含む）のコーディネーターが活躍しています。

(2) 事業の内容

学校と地域の「人・もの・こと」をつなぐ役割を担っているコーディネーターを核にし、各学校では、次の4点を柱に据えて多様な活動を行っています。

① 学校と社会教育施設、地域活動を結ぶネットワークづくり

コーディネーターが公民館や図書館、コミュニティセンターなどに直接足を運び、事業の周知とボランティアの協力依頼を行っています。花壇整備や読み聞かせなど「活動」ごとに集まっていたいただいたボランティアの方々が、回を重ねるごとに主体的・自立的に取組を進めていく学校も見られます。

また、ボランティアの組織化が進み、ボランティア同士がつながることで地域の活性化が図られている学校もあります。

② 学校の教育活動・課外活動における地域人材の参画と協働

昨年度、本事業実施139校における学校支援ボランティアの合計数は年間延べ15万人を越え、大勢の市民のご協力をいただき大変喜ばしい状況です。

授業や学校行事のほか、休憩時間や放課後の時間などにも、子どもたちの豊かな学びや体験活動のために、ご支援をいただいています。

主な取組例として、小学校では、「昔の遊びの紹介」、「地域の自然や文化についての講話」、「ミシンや調理実習の補助」、「体育実技の安全補助」など、中学校では、「職業体験」、「戦争時体験の講話」、「高校入試などの模擬面接」などが上げられます。また、小・中学校ともに、

実践記録

175

シリーズ

南魚沼市大和地区のコミュニティホール『さわらび』

南魚沼市大和公民館 石田洋一郎

昭和58年12月大和町公民館（平成16年合併により大和町公民館から大和公民館に名称変更）が開設され、これまで多くの市民から施設を利用いただいております。当公民館は、図書室・コミュニティホールを併設しており、特に、コミュニティホール『さわらび』は当時の大和町民に良い音楽を聴いてもらうため、『早春コンサート』と銘打って、毎年3月にクラシックを中心に音楽鑑賞を行ってきました。

当時、一般の人達にはなかなかクラシック音楽はなじめず、空席が目立ちました。職員もチケット販売に大変苦労し



た思い出があります。そんな中、起死回生の手がありました。たまたま日本ツアーに来ていた『ベンチャーズ』のコンサートを実現することが出来たのです。これには職員も町民も大喜び。町民は朝8時30分からのチケット販売を目的にビートルズやローリングストーンズとともに活躍したベンチャーズを目の前で見られるとあって、公民館前は長蛇の列。400席は約15分でチケットは完売しました。喜んだのは町民もさることながら職員が一番喜びました。あれだけ苦労したチケット販売が一瞬で終わったのです。コンサートが大成功に終わったのは言うまでもありません。

○コミュニティホール『さわらび』

このホールは大和公民館開設の一年後に公民館に隣接して建設された客席400席の小さなホールです。



緞帳も当時の保育園児が描いたデザインをモチーフに作成されました。ホールがなかったころは、秋に行われる町民参加の大和町芸能祭は中学校の体育館で行われ、音響や照明などの機材の持ち込みなどは、大変な苦労があり、観客は床に座って観賞していたと聞いて

います。ホールが出来てからは、もちろんそんなことはなく、近年は、子供達のピアノ発表会・学校の音楽発表会ダンスや踊りの発表会・講演会など幅広い利用をいただいております。

客席が400席（実際は392席）なので、250人程入ると『満席に近いな〜』という感じがします。

一応ホールなので一通りの設備は完備しております。舞台と袖がちょっと狭いのが欠点ですが、近くに来ましたら、ぜひお立寄りください。

○『自主事業』

大和公民館では、自主事業(入場無料)を行っております。ひとつは今年で26回を数える『さわらび』演劇祭、もうひとつは22回目の『さわらび』音楽祭です。

*『さわらび』演劇祭

演劇祭は魚沼地域の高校演劇部、そして南魚沼市内の一般の演劇愛好団体の出演で毎年9月上旬の土・日の2日間開催



しております。実行委員会を開催し、様々な計画を立てます。

演劇祭は出演団体が音響や照明を自ら操作をします。そのため『さわらび操作師会』（ホール運営をするための団体）の指導を受けて操作をします。ぜひご覧になってください。

*『さわらび』音楽祭

音楽祭は魚沼地域の小・中学校の鼓笛隊や吹奏楽部高校の音楽部・魚沼の音楽サークル・音楽愛好者による発表会です。



オカリナ・ピアノ・アカペラ・フォーク・エレキなど種々様々な発表です。毎年10月下旬の日曜日に開催しており、演劇祭と同じく、実行委員会を開催し、リハーサルを経て、発表会に臨んでます。身近な人たちの出演とあって、足を運んでくれる人も年々多くなってきております。

会員の健康維持と親睦を

魚沼太極拳クラブ

当太極拳クラブは、公民館での体験教室終了後、有志により、発足しました。

その後、会員の出入りはありました。現在は、週一回夜間の教室と、日中の教室の二カ所それぞれ練習しています。

太極拳は、ゆっくりとした動作で年齢性別に関係なくどなたでも手軽に出来る運動です。

しかし、武術の為、奥が深く動作の意味がわかってくると面白さと難しさを感じてき



ます。

昨年は、生涯学習体験ひろばにも出て太極拳の披露をしました。

健康維持に興味のある方は是非とも太極拳を体験してみてください。

魚沼市魚沼太極拳クラブ

森山喜久男 記



楽しく踊ろう

あさひヨサコイチーム21

「今晚は!!」「元気?」明るい声が練習場に響きます。私達が、ヨサコイチームを結成してから10年以上になります。ヨサコイの魅力は、何と云っても、鳴子をならしながら、全員で躍動感いっぱい

踊りを表現する統一感です。そして、曲の合間の掛声を、大きな声で「ソイヤッサー!!」曲が終わる頃には、心地よい汗と笑みがこぼれます。これには私達主婦のストレスが、一気に発散されます。おかげで、皆はつらつとしています。

メンバーは現在20名程です

が、活動の場は県内全域です。そして、年一回新潟市で開催される「総踊り」は、県内外からの色々なジャンルのチーム演舞を見る事が出来ます。又来年の為に練習練習です。



村上市あさひヨサコイチーム21

齋藤 厚子 記

三条市中央公民館の伊藤航太君を紹介します。今年度の新採用職員です。

〈来たれ 素直な肉食系〉

これがわが三条市役所の職員採用募集の呼びかけです。

このきびしい試験をパスしてきたのが伊藤君というわけです。

待ち望んでいたフレッシュな人材。仕事ぶりは熱心で丁寧。来館者との対応も爽やかです。仕事は成人式、学習情報提供、それに生涯学習推進計画づくり。

大学時代は吹奏楽サークルでチューバを吹き、そのパート

三条市中央公民館

主事 伊藤 航太さん



リーダーだったとのこと。楽器のイメージどおり、縁の下の力持ち的などころがあり、毎日誰よりも早く出勤し、公民館の玄関や来客カウンターをきれいにしている姿には感心させられます。

「公民館職員は雪だるま。じっとしてはダメ。溶けてやせるばかり。いろいろな人と接して、動きまわって大きくならなければ」と、県の生涯学習基礎研修会での教えを日々実践しています。

(三条市中央公民館長 金子 正典 記)

今年の4月から新規採用で仲間に加わった加藤歩惟さんです。「かとうあい」って読みます。まるで「うみぞ●」に出てきそうな感じではありますが、本家本元に負けず劣らずのヒロインであります。

最近、引越しも無事終わり、晴れて“地元イー”^(ジモティー)となった加藤さんは、飲み会態勢準備万端(!?)で、今日も張り切って仕事しています。

初年度から一施設を任せられ、きっと大変なのにも関わらず、職場ではそんな素振りを見せ

五泉市中央公民館

主事 加藤 歩惟さん



ない…。そんな加藤さんは、職場の仲間はもちろん、講座参加者はじめ、掃除のおばちゃん、体育館の野良猫にまで愛されています。

1年目にして皆から人気抜群な加藤さんは、東京進出をめざし、休日には原宿竹下通りに出没します。プライベートなので、写真・握手はご遠慮願います。

(五泉市中央公民館 加藤 了 記)



お元気ですか

岡村 和博 (十日町市)



今年とはとにかく暑い夏でしたの。数々の感動を呼んだロンドン五輪。そして記録的猛暑、これには参りました。

昨年地区公民館を最後に退職後、しばらくは静かに過ごしていましたが、退職を待っていたかのように様々な仕事が舞い込

みました。集落の役員、地区公民館分館の主事、市の体育施設の管理人、博物館友の会事務局等全て引き受けました。8月には、在職中担当していた津南町公民館と共催のサバイバルキャンプにボランティアで参加してきました。学校では教えない世の中で生きて行く力を鍛えるキャンプです。来年も行く約束をしてきました。

海釣りの趣味が高じて、魚料理を覚え、今年中央公民館で男の料理教室の講師です。明日は直江津ヘワラサ釣り、料理教室の食材を釣って来れるかな？

Net work ネットワーク

中越地区公民館職員研修会開催される

平成24年9月11日(火)に見附市中央公民館で開催されました。研修テーマは「元気な地域社会を創造していく公民館をめざして」～「むすぶ」役割を生かした公民館運営～で、午前と午後にわたり研修を行いました。



- 1 研修1 講演 講師：諏訪部寛栄 (県生涯学習推進センター学習振興課長) テーマ「むすぶ」役割を生かした公民館運営について
- 2 研修2 演習 講師：加藤 圭 (小千谷市生涯学習スポーツ課指導員) 内容 明日から生かせる実習を中心とした演習

下越地区公民館職員研修会開催される

平成24年9月6日(木)に新発田市生涯学習センターで開催されました。研修テーマは「地域課題と向き合い、地域と共に歩む公民館をめざして～心を



「つなぐ」講座づくり～で、一日研修を行いました。

- 講義と演習 (グループワーク) 講師：諏訪部寛栄 (県生涯学習推進センター学習振興課長) 田邊 寿夫 (県生涯学習推進センター学習振興課副参事)

事

事務局長のつぶやき
○松本大会のショック

関プロ長野・松本大会に参加してきました。国際的なイベントにも十分対応できるような大変立派な施設でした。

1日目の「リレーメッセージ」講演は、今までの常識をくつがえす衝撃的な演出と内容でした。参加者を飽きさせない素晴らしい内容で、

100年先の日本のために

豊かな水を育み国土を守る森林は、「緑の社会資本」であり、地球温暖化の防止にも大きな役割を果たしています。私たちは、その恩恵を後世の人々が享受できるよう、長期的視点に立った森林づくりを推進しています。

新潟県市町村林政振興協議会
会長(村上市長) 大 滝 平 正

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025 (285) 0041 FAX 025 (285) 1609

来年の新潟大会の基本的コンセプトを再考する必要ができました。夜のレセプションは4000人の大人数のなが、文化財の指定を受けている団体のアトラクションやお土産抽選と盛りだくさん。ピユッフェ方式で食べ放題のこともあり、ステージの熱演を横目にひたすら飲んで食べた2時間でした。来月号の特集で詳細なレポートを紹介します。(田原)